



7月16日、関係者など約270人が出席して渡り初め式が行われました。

あいにくの天候にもかかわらず、地元自治会から大勢の人たちが渡り初め式に訪れました。

大阿賀橋の概要	路線名	●主要地方道新潟大外環状線
	位置	●豊栄市大迎地内～横越町小杉地内
	道路規格	●第3種3級 有効幅員10.5m
	橋長	●887.9m
	取付道路	●右岸420m 左岸360m
総事業費 ●約71億円		



激しい雨のため、予定を変更して自動車による渡り初めとなりました。



大阿賀橋竣工記念碑除幕式 6月8日

大阿賀橋の建設に尽力した人々を称え、その竣工を記念する石碑が、大阿賀橋のたもとに建立され、6月8日(日)、その除幕式が厳かに挙行されました。

石碑は岡方地区の皆さんや架橋建設に関係した多くの人々の浄財によって建立されました。碑には岡方地域と豊栄市の発展を願って「黎明開化」の題字が刻まれています。

なお、題字は小川市長によります。

大阿賀橋開通

7月16日

大阿賀橋 渡り初め式

亡くなった人もいますが、三十年來の夢がかなったことを喜びたい」と大阿賀橋建設地元期成同盟会会長の渡辺健さん(太子堂 六十九歳)は話しています。

また、大阿賀橋の豊栄市側には公園が設置されており、広い遊歩道も備えていることから、地元の気軽な散策路としても親しまれています。

期待される経済効果

大阿賀橋は、次ページで紹介している主要地方道新潟大外環状線の路線として計画されています。平成五年に主要地方道新潟大外環状線に昇格したことによって急ピッチで工事が進みました。現在は

暫定供用の状態であり、新潟大外環状線の計画ではもう一本同じ規模の橋がかかり、四車線となります。四車線化はしばらく先のことになりそうですが、大阿賀橋が暫定供用開始されたことで、慢性的渋滞状況にある新潟市内との交通が分散され、所要時間短縮に期待が寄せられています。

これまで豊栄市では、J R白新線や国道七号線新バイパスなどの主要交通網や新潟東港など、市の北側地域を中心に開発が行われてきました。しかし、大阿賀橋開通により、阿賀野川左岸地域との交通が容易になることで、今後岡方地区や長浦地区についても様々な発展の可能性が広がります。

阿賀野川左岸地域が一步身近に 大阿賀橋が開通



7月16日、大阿賀橋が開通しました。大阿賀橋は、豊栄市内から直接阿賀野川左岸地域へ渡ることができ、新潟市方面との交通渋滞の緩和などに大きな期待が寄せられます。

また、大阿賀橋は主要地方道新潟大外環状線の路線ともなっています。今回は大阿賀橋の完成をお伝えするとともに、新潟大外環状線整備計画についてみていきます。

三十年來の願いが結実

この地に橋を架けようという運動が始まったのは、昭和四十年頃のことといえます。昭和三十年代までは、現在の大阿賀橋下流を渡し船が往来し、亀田の市への重要な交通ルートとなっていたそうです。その後、下流の泰平橋や上流の横雲橋が整備され、車社会が到来したことで渡し船は廃止され、それまで盛んだった横越方面との交流ができなくなりました。

「人が歩いて渡れるだけの橋で良いから」と地元太子堂・大久保・大迎・長戸呂・大瀬柳の自治会、対岸の横越村(当時)の自治会によって、大阿賀橋建設地元期成同盟会が結成されたのが昭和四十五年のことだったそうです。

「最初は『虹の大橋』『夢の大橋』などと呼んで雲をつかむような話でした。それが地元の自治会の皆さんの熱意で着工にこぎつけ、こうして開通を迎えることができました。手弁当で東京まで陳情に行ったりと一緒に活動してきた仲間の中には

昭和五十七年の調査着手から、十五年の歳月と総工費約七十一億円の巨費を投じた大阿賀橋が開通しました。豊栄市内から直接阿賀野川を渡る橋としては初めてのものです。

大阿賀橋は、地元岡方地区の皆さんの強い要望が行政を動かし、実現しました。この橋の開通によって阿賀野川左岸地域との交流促進が期待されています。